

令和5年度第2回行方市総合教育会議

○開催日時 令和5年11月27日(月) 午前10時30分～午後0時15分

○開催場所 行方市役所 北浦庁舎2階 第2会議室

○出席委員

行方市長	鈴木 周也
教育長	横田 英一
教育長職務代理者	滝 恵美子
委員	大崎 あい子
委員	明石 延之
委員	久米 雅文

○事務局出席者

教育部長	金田 久美子
学校教育課長	高柳 雅彦
生涯学習課長	宮内 敏
学校教育課指導室長	大崎 雅之
生涯学習課参事	齋藤 俊
スポーツ推進室長	高田 和明
学校教育課課長補佐	内田 恵子

1 開 会

2 あいさつ

3 付議案件

- (1) 令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告(令和4年度実施事業)について
- (2) 今後の教育行政の重点取組みについて
 - ・国際教育推進事業の進捗と今後の計画について
 - ・ICT教育の推進について
- (3) 歴史文化資料の保存・公開・継承について

(4) その他

・行方市いじめ及び不登校の現状と課題について(報告)

・本市児童の口腔衛生の向上について(報告)

4 その他

5 閉 会

○議 事 録

1 開 会

金田部長から開会の宣言がなされました。

2 あいさつ

鈴木市長からあいさつがありました。

横田教育長からあいさつがありました。

3 付議案件

議事録署名委員に滝委員を指名しました。

(1) 令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果報告(令和4年度実施事業)について

発 言 者	発 言 内 容
明石委員	二十歳の集い事業については、ぜひ行方市の良さを再認識又は確認していただくような場をつくれば良いと思います。例えば、これまでなめがたエリアテレビで放送していた行方市に関わる自然や人とのふれあいなどの番組を10分程度に編集して、それを新成人や来場者等に見せながら式典スタートを待つというかたちにできたらどうかという提案です。モニターを何か所かに設置することが可能であれば、式典の開始を待つ成人が映像を見て、歓談しながら待つこともできるかなと考えました。そうすると心もある程度穏やかになって、又はこの地域外で育ってここで式典を迎える若者たちも行方市のいろいろなポイントが感じられるのかなと考えます。
宮内課長	なめがたエリアテレビの担当課と調整しながら、そのようなかたちでできるように進めてまいりたいと思います。なお、当日もなめがたエリアテレビに来ていただいて、式典の様子とかアトラクションをやっている様子など、式典が終わった後に放送するように今のところ進めています。
鈴木市長	評価委員の意見に改善というものがありました。文化協会についても使用料の負担とのバランスが大切なところですが、生涯学習の意味というところを踏まえて、どこまでがその適正なのかという基準を提示していただければ、ここからもうちょっと先に進めることもできるかと思います。スポーツ協会も同じようなことですが、少子高齢化ですので人口形態がどうしても減少傾向になるでしょうし、いろんなチャンネルがあるから結局団体に入ってこないのかはわかりませんが、その部分をもうちょっとよく調べていただければありがたいと思います。
横田教育長	団体の話もありましたけれど、加入のことも含めてしっかりと調査を進め、その上で施策を行うことが大事になってくると思います。また、横断的に市長部局との連携を図る必要があるものもあると思いますので、しっかりとやっていきたいと思います。

鈴木市長	他市ではスポーツ少年団にスポンサーがつく例が最近増えてきています。文化においても、例えば文化財団がかなりそこをやっているところもありますので、情報をとるようにしたいと思っています。
横田教育長	教育部門においても企業との連携なども多くなっており、参考に進められたらと思います。

(2) 今後の教育行政の重点取組みについて

・国際教育推進事業の進捗と今後の計画について

発言者	発言内容
滝委員	<p>外国語教育がよい方向に進んでいると思います。行方市の子どもたちは、能力的なことではなく、日本人特有の同調意識やまわりの人といっしょにならなくては許されないと思込んでいるようなところがあり、人前で話すこともあまり好まず、能力が高くても人前で英語を話すことはやりたがらないところがありました。これからは、本当に必要とされる場面があると思います。</p> <p>行方市で育った子どもたちには、行方市に住むよさを感じてほしいと思います。行方市に住みながら、必要であれば農産物を外国に売り込めるような力を持った大人に育てたいと考えます。</p> <p>英語の指導の力がここ数年間で上がっており、スペシャリストの授業をやっていけば英語に対する抵抗がなくなると思います。スペシャリストたちも入って、非常に環境が整ってきていますので、これが続けば外国に行方の人材でさつまいもやチンゲン菜を売りに行ってくれる人たちが育つのではないかと思います。これをぜひ続けていただきたいと思います。</p>
大崎委員	<p>中学生の異文化体験事業や海外派遣に関しては、それをなぜ行くのかとか、何を調べたいのか、聞きたいのかといった、そちらの動機付けがこれからは求められてくるのかなと思います。選ばれた子どもは市の代表として行かせてもらうわけなので、帰ってきてからみんなに啓発していくという役割を持っているということは重々意識させてもらいたいと思います。なめがたエリアテレビで報告を流すということもいいと思います。</p> <p>また、英語は手段なわけですから、まず日本の歴史とかいうものを身に付けるということを大事にしてほしいと思います。先生方がそういう機会をたくさん子どもたちに提示してあげることが大事だと思います。</p> <p>人を動かすというのはやはり興味的な部分だと思いますので、そういうものを大事にして、子どもたちにも海外を身近なものとして捉えてほしいです。</p> <p>オンラインブレンディッドについては、具体的には授業中にオンラインで外国人講師とつないで実施するものですか。</p>
横田教育長	<p>海外派遣に行った後は、学校での報告会を行っています。なめがたエリアテレビなどについては、新たな発想だと思いました。これについては、担当のほうで検討していけたらと思います。事業を行うに当たっては、行方、茨城、あるいは日本、やはり</p>

鈴木市長	<p>それを伝えてくるということもできないと国際教育にならないので、そのためには自分の住んでいる市に愛着を持てるようなことにつながる活動が事前活動として必要かと思います。</p> <p>オンラインブレンディッドについては、単元での学習が終わった後に、ここで学んだことを生かして1対1でのコミュニケーション力を育成するためのものです。</p> <p>国際教育については力を入れさせていただいており、英語を喋る機会がおそらくこれからかなり増えるのではないかと、若しくは聞き取れるかどうか勝負になってくるだろうと思っていて、その体験を小さい小学生のうちからやはりやらないと駄目だと思います。喋るきっかけとか話す機会というところの部分も改善しないといけないし、そうするとオンラインでもいいですけど、海外というところではやはり行かなければわからないものがあると思っています。</p> <p>世界標準語はもう英語になってしまっています。その部分を進めていきたいと考えており、海外に打って出るというのがありますし、受け入れたときの環境も今までの行方市ではどうしても受け入れにくい風土とかあったのですが、それを少しでも変えられれば、地域のためにいいと私は判断しています。オーストラリアの派遣のほうも、円安なので予算取りは難しいのですが、うまく考えられればと思います。</p> <p>A L Tについては、フィリピン出身が多いとのことだが、フィリピンの大学は日本の大学より実はすごく頭がよく、そういったところに問題はないだろうと私は判断しています。</p>
横田教育長	<p>今行方市においても意識が変わっていて、行方市でもホームステイがOKですよというのが以前は誰もいなかったのですが、今OKの家が増えてきていますので、そういう家庭にも追跡調査を行っていくということが必要かと思います。</p>

(2) 今後の教育行政の重点取組みについて

・ICT教育の推進について

発 言 者	発 言 内 容
明石委員	<p>教員個人とICT支援員が関われるような時間の設定というのが私は必要かと思います。これは学校が工夫しなければならないことだとは思いますが、授業時間というのは教員は子どもに向き合ってしまうので、支援員と直接的に会話をする時間がほとんどとれないので、関われるような時間をとれるようにしていけば、一人一人の教員が自信を持ってICTの活用に慣れることができ、それがやがては子どもたち一人一人への自信を持った教育活動につながっていくと思います。</p>
高柳課長 横田教育長	<p>令和6年度はICT支援員の業務を集約し、有効活用していきたいと思っています。</p> <p>ICT支援員には授業にも参加させていただいて授業中に機能していない部分も対応しますし、個々に応じたものを教員のサブとして対応するという場面もあるのですが、先生のフォローや指導、研修の機会を含めたものにも使えるようにしていきます。</p>
鈴木市長	<p>ネットワーク整備については、うちの市はこのへんはきちんとやっているし、光ファイバ網もありますから、充分だろうと思いますし、今後も環境は整備していても</p>

	raitai to omoimasu.
--	---------------------

(3) 歴史文化資料の保存・公開・継承について

発 言 者	発 言 内 容
明石委員	専門員の採用については、なかなかほかから呼んでくるのは大変だと思うので、奨学金制度を設けるなどというかたちで育てていくという発想でいくこともひとつの案かと思います。
横田教育長	学芸員の配置も今後考えていかなければならないとは思いますが、最初は委託でも考えられますが、専門的知識がないと整理できない部分もありますので、そのへんについては検討していかなければならないと思います。奨学金制度については、教育委員会だけではできない内容ですので、今後市長部局と考えていきたいと思っています。
鈴木市長	専門員の部分がどこまでやれるか、5年をかけて整備をしなければならないところですが、広域化でやったりするということもあるので、どこらへんを切り口にするのかだけは調べておいていただければと思います。
横田教育長	なめがた巡りにについても観光事業とか市長部局との関わりをしていかなければならない内容だと思っていますので、よろしく願います。

(4) その他

- ・行方市いじめ及び不登校の現状と課題について(報告)
- ・本市児童の口腔衛生の向上について(報告)

発 言 者	発 言 内 容
滝委員	不登校の現状のところで、きっかけは何だったのか、起因は何だったのか、そのことをよく捉えて対応していかないと、解決にも結び付きません。いじめを起因とする場合には、それが30日以上になると重大事態となります。もう一度学校の先生たちにこれを見直してもらう必要があると思います。
大崎室長	再度学校のほうとしっかり連携を取って、情報収集をし、対応をしていきたいと思っています。
横田教育長	報告の仕方が変わってきているところで、現状の報告になっているというところは再確認しますが、教育委員会としては起因も把握するというを明確にしなければなりません。
鈴木市長	まさに横のつながりだと思っています。いじめとか、先ほどの起因という部分になると人権擁護になってくると思いますし、学校と保護者の関係は必ず出てきまして、そこを教育委員会だけがかかえないで、他の部署で福祉部門ともつながっていただきたいと思っています。家庭環境というものをよく見ないとならないので、学校だけではなく市のほうにも関わっていただければと思います。 口腔のほうに関しても、今ようやく国のほうでも歯の重要さに動き出したものから、その点も市の施策と併せてやっていただければと思います。多くの目があると非常によい施策になるかと思っていますので、よろしく願います。

横田教育長

口腔衛生についても、この後連携を図ってやっていけば効果的な部分があると思いますので、そういうことで進めていけたらと考えています。

4 その他

5 閉 会

金田部長から閉会の宣言がなされました。